

全国トップ
1603高校

大学「実」合格者

週刊朝日

広瀬隆
「原発なしで
夏も乗り切れる!」

三谷幸喜・小林聰美
「半熟年」離婚の
引き金

毎晩抱き合って
眠る「終末婚」

6|10
増大号
2011
380円

放射能汚染

米、野菜、肉、魚介類…

食べてはいけない!
見分け方

忽那汐里



ポスト3.11を生きる

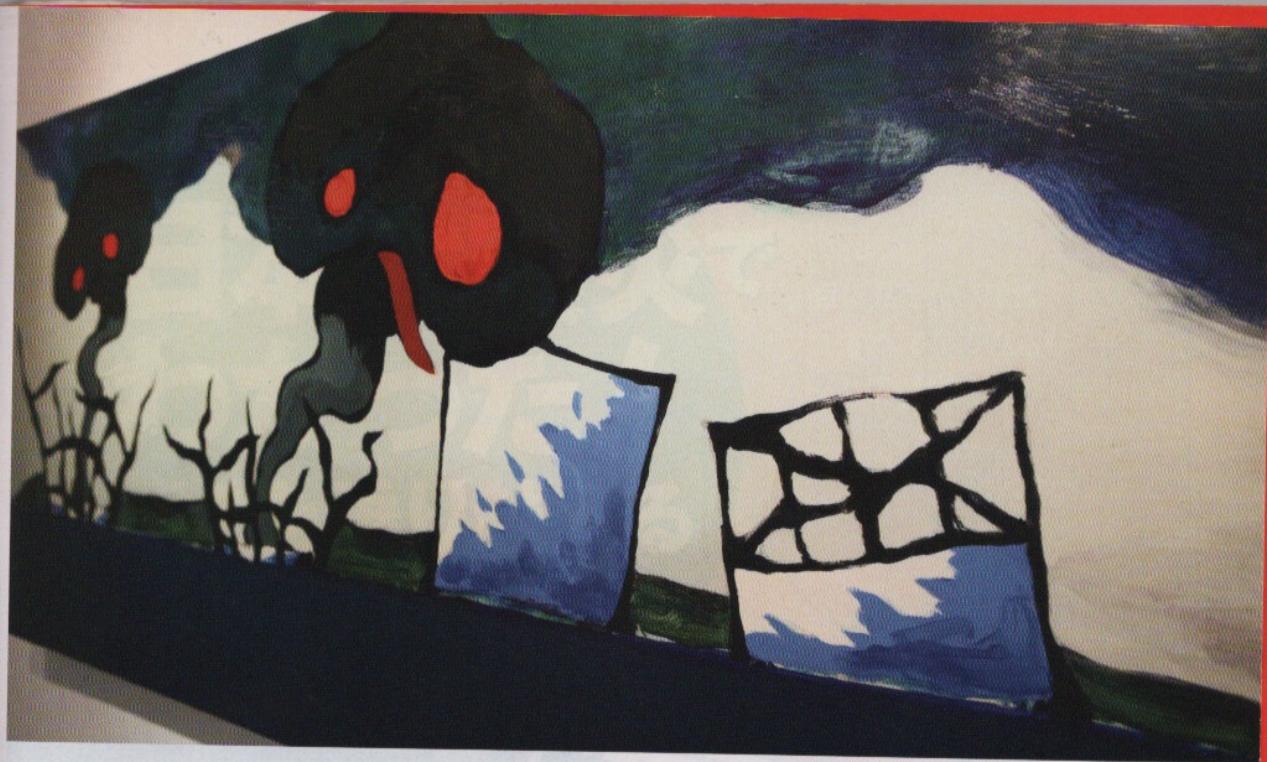
アートの叫び

震災はアート界にも大きな影響を与えていた。
平均年齢30歳のアート集団、Chim↑Pom(チムポン)、も震災に正面から向き合っていた。

写真=時津 剛(本社) 文=宇佐美里圭(本誌)

「Without SAY GOOD BYE」○福島第一

原発近くの畑に、防護服とガスマスクを着用したかかしを設置。無人の町で、使えなくなった畑を守り続ける。奥に原発の建物が見える



「LEVEL 7 feat. 「明日の神話」」○故・岡本太郎氏が原水爆について描いた壁画、「明日の神話」に福島第一原発の絵を付け足した。作品は翌日撤去された。「第五福竜丸、広島、長崎。被ばくは過去のものだと思っていたら、現実がそれを更新してしまった」とメンバーは話す



「被曝花ハーモニー」○福島第一原発30キロ周辺地域の植物などを除染して制作した。フラワーアーティスト・柿崎順一氏とのコラボレーション。展覧会初日、菜の花が新しい種をつけていた



「日本犬」○相馬市で撮影。倒壊した家の前で会った犬についていくと、中にケガをした別の犬がいた



「Never Give Up」○日本原水爆被害者団体協議会の代表委員、坪井直氏からのメッセージ

「あのとき何をしたか」
すべての人間に問われる

「放射能に負けないよ!」「おー!」「ボランティアの人たちありがとう!」「おー!」。5月20日から25日まで東京都内で開催された展覧会「REAL TIME」の映像作品「気合い100連発」(左ページ上写真奥)だ。アート団体「Chim↑Pom(チンポム)」のメンバーと、福島県相馬市の若者が円陣を組み、叫び続ける。瓦礫の町と、彼らの明るさが奇妙に交差する。

「Chim↑Pom」は27~33歳の男女6人のグループ。5月初め、東京・渋谷駅構内にある故・岡本太郎の壁画「明日の神話」に福島第一原発の絵を付け足し話題になった。賛否両論はあるが、今回展示した作品は、すべて正面から震災に向き合ったものだ。

地震発生後の彼らの行動は素早くかった。1週間も経たないうちに、メンバーの一人が支援物資を持って福島入り。ボランティアを始めた。4月上旬には、福島第一原発30キロ圏内へも防護服を着て入った。そのとき驚いたのは、報道陣がまったくないことだった。リードラーの卯城竜太(33)は言う。

「報道陣も入ろうとしないところで、同じ人間が原発作業員として働いてい



「Chim↑Pom」。右から岡田将孝、エリイ、稲岡求、林靖高、卯城竜太、水野俊紀。社会的メッセージの強い作品が多い。2010年、「Asia Art Award」の日本代表に選ばれている



会場となった東京・清澄白河の「無人島プロダクション」。
最終日は約1000人が来場。大阪で巡回展の予定もある

※右ページの下の写真3点と会場写真はギャラリー提供

るのか、と違和感を持った」

現場に行かない問題の核はつかめない。合計7回、福島へ足を運んだ。

「後世、あのとき、日本のアートは何をしたか」と必ず問われる。報道だって問われる。すべての人間の行動が問われる。僕らは将来、堂々と「『』をした」と言えるようありたかった」と卯城は続けた。

今回の展覧会は、どんな状況でも「ボジティブに生きたい」という彼らの意思表明のようでもあった。「明るさと強烈なユーモアは、人間が困難を乗り越えていくときの力になる」(卯城)。人間は、死に選択の余地はないが、生き方は選べるのだ。

(敬称略)